

【編集元】民主党三重第2区総支部 衆議院議員中川正春事務所

E-mail:nakagawa@cronos.ocn.ne.jp

三重／〒513-0801 三重県鈴鹿市神戸 7-1-5 TEL:059-381-3513/FAX:059-381-3514

東京／〒100-8981 千代田区永田町 2-2-1 衆議院第一議員会館 428 号室 TEL:03-3508-7128/FAX:03-3508-3428

○来年の弾込め、政策立案活動始まる

予算委員会が一段落するまでは、大臣が国会に釘付けになっています。私たち三役は、その留守をあずかる形で、今回に続く次の一手(政策立案)を考えるために、各部署をフル動員しています。

事業仕分けが4月ごろから入ってくる予定です。今回のテーマに関係する特殊法人や独立行政法人の事前仕分けをやっています。科学技術の総合的な政策を政治主導でやるために、現在の総合科学技術会議(専門家の集まり)の見直しをすることや、研究開発法人(独立行政法人の研究所)の新しい位置づけをするプロジェクトに着手しています。また、大学や研究所にすばらしい技術開発の芽が育っているにも関わらず、それを民間利用につなげる橋渡しの資金供給ができていないことが問題だとわかりました。これを「明日にける橋」プロジェクトと呼んで、関係者の英知を集めて新しい仕組みを作る取り組みをしています。

これからの日本を元気にするための成長戦略が発表されました。その中の、観光立国実現とアジア共同体に向かった文科省の具体的な政策を提言するプロジェクトも手がけています。文化庁の管轄下にある世界遺産や、文化財、博物館、美術館、伝統芸能から映画や現代のメディア芸術まで、全てが世界に対して有効に情報発信をすることや、その一つ一つが地域おこしの原点になれるような魅力を掘り起こすことができれば、人は、日本に來ます。文化庁はこれまで、規制官庁で地味なことしかやってこなかったことを反省すべきだと思うのです。「守りの文化庁から、攻めの文化庁に脱皮しよう」と、号令をかけて、観光立国プロジェクトを走らせています。アジアも楽しい分野です。留学生、大学や研究機関の交流、共同研究などはもちろんのこと、社会科学分野や、文化の面でも、アジアの源流をさかのぼることで共通の「アジア観」を作ること始めています。日本には、国連大学があるにも関わらず、これを十分に活用していません。私は、ここを舞台に、アジアの国々が共同で取り組めるプロジェクトを組み立てる作業に取り掛かっています。さらに、「歴史認識」の問題を乗り越える一つの方法としては、

中国や韓国の現場の教師に日本に来てもらって、できるだけ多くの日本の先生や地域の人々と交流してもらおうです。生の日本をそれぞれの国の子供たちに伝えてもらう「未来への歴史認識」プロジェクトです。

古巣の税制調査会でも文科省の課題を実現したいと思っています。NPO の活動や地域ボランティアなどの「新しい公共」が元気になっていくことが大切です。さらに、これまでの文化や教育、科学技術の世界でも、国や地方自治体の補助金に頼るだけの活動から脱皮して、民間寄付を財源にすることができる仕組みを真剣に考えようと言いつけてきました。「おらが町」の学校、サッカーチーム、合唱団、美術館や、ボランティア活動などなど、地域が元気の出る身近な活動に寄付すればそれが税金から引かれる仕組みがあれば、活動がもっと多彩に活力を持てきます。5月までに、具体的な税制改正をまとめようと、税制調査会にプロジェクトチームが出来ました。今、文科省提案をまとめています。

その他、教育関係でも外国人労働者とその子供たちの教育問題、電子書籍の著作権、先生の研修、大学の質等々、来年の予算要求や法案提出にしっかりと組み込んで実現できる目鼻をつけたいと思っています。

○現場は楽しい？

精一杯、現場を歩いています。学校や大学の研究室だけでなく筑波や東海村、神奈川の海洋研究所などの研究施設。科学未来館や美術館、博物館。国立劇場や図書館など多種多様。

先日は、文化庁の主催した「メディア芸術祭」に出かけました。ルノアール展と同じ会場です。マンガやアニメ、ゲームソフトなどは、日本が世界に誇る分野。私もこれまでの人生経験の中に納まって素直に楽しみました。一方で、困ったのは先端芸術分野。一瞬どのような顔でこれを鑑賞したらいいのか、戸惑います。ルノアールの可憐な少女像を見る時のように単純にはいかないのです。「副大臣、心を空にして、ただただ楽しめば、おもしろさが理解できます。」こんな周りのアドバイスに、それなりの顔で、「そうか、そうか。」とうなずいて楽しいときを過ごしました。